

感謝の賛歌をうたいましょう

主任司祭 吉池 好高

路地ごとにのぞき見て行く梅の春

陽の光に春の訪れを感じる季節となりました。ミサ式次第を追ってのいしずえ巻頭言も、ミサの中心から差込んでいる光を感じることができます。その中心にはイエス・キリストによってもたらされた救いの光があふれ出ています。

その救いの光に感謝してミサの中心に心を向けてまいりましょう。すべてのものの父である神の御わざをたたえて、叙唱が唱えられます。典礼暦の季節に応じて、また祝祭日に応じて叙唱には多様な感謝と賛美のことばが盛り込まれています。叙唱はラテン語でプレファツィオと言います。プレと言うのは、前にとという意味です。これには、これから行われる感謝の祭儀の中心である最後の晩餐の記念である聖体制定の前にとという意味が込められていると受け読めることができます。もう一つの可能性は、神の御前に感謝を込めて申し述べると言う意味にも受け止めること出来ます。天の天使たちが神の御前で神の偉大な御わざを絶え間なくほめたたえるように、ミサをささげるわたしたちも天の天使たちの賛美の歌声に合わせて神を賛美するように招かれるのです。預言者イザヤが召命を受けた時に幻のうちに見た天の天使たちの歌声に合わせて、わたしたちも神の栄光をたたえて「聖なるかな、聖なるかな」と感謝の賛歌を歌いましょう。

ミサは感謝の祭儀と言われますが、ミサにおけるわたしたちの感謝は叙唱に歌われる神の偉大な御わざに向けた感謝なのです。イザヤの幻のうちに、そしてまたクリスマスの夜空に響いた天使たちの歌声に包まれて、わたしたちは天の天使たちとともに、感謝の祭儀であるミサを、父なる神にささげるのです。叙唱のうちに表明した理由に基いてともに感謝の賛歌を歌いましょう。聖なる神をたたえて「聖なるかな、聖なるかな」と声高らかに神をたたえて歌いましょう。

「ほむべきかな、主の名によりて来る者」と、聖体の秘跡のうちに今日もわたしたちのもとに来てくださる主イエスをお迎えする心を新たにしましょう。イエスのエルサレム入城をもって、新しい過越しが始まったのです。わたしたちも感謝の喜びのうちに主を迎えましょう。